



資料を見せて熱演される安藤弥先生（10月5日、順慶寺本堂にて）

今月の一枚

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2024年(令和6年)

11月号

VOL.373

◆◆ 歴史の底力 ◆◆

戦国時代には、一向一揆を興すほどに寺と民衆は一体であった。しかし、江戸時代に始まった寺請制度によって、寺の護持は安定したが、本来の役割は薄れてしまった。寺の本来の役割は、苦しむ人々と寄り添い、教えを説いていくこと。公開講座で安藤先生は、この一点を強く教えられた。

◇ 過ちは受け入れがたいもの ◇

今月の釈尊のお言葉は、『ダンマパダ』より、

「自分の過ちを指摘し、教えてくれる

聡明な人に出会ったら

宝のありかを教えてくれる人に

つき従うように

その人につき従え。

そのような人につき従うならば

善いことはあっても、悪いことはない。」

(第七十六偈)

からの出典です。

私たちは、自分の思いを肯定してくれる人、思い通りにさせてくれる人、わがままを許してくれる人を、いい人だとします。逆に、耳の痛い話をする人は、嫌な人、悪い人として遠いところに追いやります。ところが、失敗したとき、病気になるたとき、取り返しのつかないことをしたときに、ようやく自身を見直す縁を頂きます。凡夫の身でも、時遅くして、かつて耳の痛いことを教えてくれたことが、実は大切だったのだと頭が下がります。今月の出典は、釈尊が祇園精舎におられたと



今月の釈尊の言葉

過ちを教えてくれる
聡明な人に出会ったら
その人につき従え



『ダンマパダ』
76 偈より

若院のテーマカット NO.66



き、ラダという長老にまつわる話です。

ラダは、貧しいバラモンの生まれでした。何とか釈尊のもとで出家をしたいと祇園精舎の近くで草取りや掃除などの手伝いを申し出ました。しかし、釈尊の弟子たちは、ラダを大切にしましたが、出家の勧めをすることはありませんでした。そうこうしているうちに、ラダは心労のため、みるみる痩せていきました。あまりに弱ったラダを見て、釈尊は、ラダのことを心配し、ラダの身の上を知る人を探しました。すると、一番弟子の舍利弗が、「彼は私が托鉢をしていたとき、一匙の食べ物を施しました」

と言ったので、釈尊は舍利弗のもとで修行するようにして出家させました。

その後、ラーダは、舍利弗の厳しい言葉をすべて受け入れたため、いち早く①阿羅漢あらかんになったと言います。

◇心に残る厳しい言葉◇

「しかるに念仏よりほかに往生のみちをも存知し、また法文等をもしりたるらんと、ころろにくくおぼしめしておはしましてはんべらんは、おほきなるあやまりなり」(『歎異抄』第二章)

これは、多くの弟子を関東に残して、京都に帰られた親鸞聖人を訪ねて、はるばる関東から来られたお弟子たちに対したときの、親鸞聖人のお言葉です。六十歳を過ぎて京都に親鸞聖人が帰落されてから、関東では、弟子たちだけで念仏の教えを頂き続けていました。しかし、やがて弟子たちにも様々

な考えを持つ人が出てきて混乱を深めていきました。そのため、親鸞聖人は息子の善鸞ぜんらんを関東に送り出し混乱を鎮めようとしたのですが、当の善鸞が、親鸞聖人が言いもしないことを言いふらす事態となっていました。

これまでも、関東の弟子たちは、度々親鸞聖人の元に行き、様々な導きを頂いていましたが、息子の善鸞が誣告ごうこくをしたとなるとはさすがに大混乱。弟子たちは、居ても起つてもおられず、親鸞聖人のもとに駆けつけたようです。

その弟子たちに対して、念仏の話に聞きにきたのでなければ、ここに来る必要はないとはつきりおっしゃったわけです。弟子たちのなかには受け止めきれず、愚痴になった人もいたでしょう。しかし、後年、弟子の唯円は、親鸞聖人がおっしゃった大切な言葉として、この一節を『歎異抄』に残しました。

①【阿羅漢】
サンスクリット語 arhat (アルハット)、パリー語 arahant (アラハント) 由来し、仏教において最高の悟りを得た、尊敬や施しを受けるに相応しい聖者のこと。この境地に達すると迷いの輪廻から脱して涅槃に至ることができるといふ。略称して羅漢ともいふ。漢訳には応供(おうく)という意訳もある。(Wikipediaより)

②【善鸞】
生没年不詳。親鸞聖人の子。号は慈信房。親鸞聖人が東国を去ったのち、門弟間に異義が生じた建長年間(1249~1256)の初め東国に下ったが、かえって親鸞聖人の実子という地位を盾に、親鸞聖人の正意と称して、第十八願を「しほめる花」に例えた異義を唱え、また幕府要路者に働きかけて念仏弾圧を工作し、門弟たちを混乱に陥れたため、康元年(1256)親鸞聖人に義絶された。義絶後は巫覡(ふげき)の徒となったといふ。(『日本大百科全書』より)



今年、お寺の報恩講の初日に、帰敬式という儀式が予定されていますが、何をやるのですか？

じゅんこちゃん、帰敬式という言葉をよく知っていましたか？

じゅんこちゃんの言う通り、今年順慶寺で帰敬式を実施します。これは、以前から本山(東本願寺)の宗祖親鸞聖人の御真影の前で、帰敬式を実施していたことを、末寺にも広く認めて、末寺の住職に執行することを許したためです。さて、帰敬式という儀式ですが、

これは、お剃刀を使って剃髪の儀式をすることです。剃髪とは、頭を丸めることですが、実際には髪の毛を切ることはせず、剃刀を三回あてて、髪の毛を落としたことにします。三回とは、有名になりたい(名聞)、うまくやりたい(利養)、負けたくない(勝他)という、私たちのころに負けてしまいますが、こうした迷いを剃刀をあてて一つずつを切り捨てる、という意味があります。

帰敬式をすると、頭を丸めたと同じで、お釈迦様のお弟子となり、欲や怒りや愚痴などの毒気のある心のままに生きるのではなく、教えを受けて生きていくことになります。そこで、お釈迦様の「釈」の字を一字いただいて、法名を受けるわけです。帰敬式は、新たな仏弟子の誕生を祝う儀式といってもいいです。



《第五十五回 物をいえ》

『蓮如上人御一代記聞書』と『蓮如上人御一代記聞書』という書物にこのような一節があることを先日学びました。物をいえいと、仰せられ候。物をいわぬ者は、おそれしきと、仰せられ候。という一節です。自らの了解を声に出して発恐ろしいのだと思います。

お寺とともに

しっぺ返し

秋らしくなったとはいえ、結局はこの10月も夏の続きのような日ばかり。10月末なのにまだ昼間は半袖でしたが、朝夕だけはようやく涼しくなってきました。

涼しくなると、やれやれですが、お寺参りに来られる方から、激しい寒暖差についていられないという声も多く聞かれました。

一方、境内にたつぷりの雨が降り、草は元気いっぱいです。やむなく草とりをすることになるのですが、何故か今年には異常なほどに虫に刺されてしまって、かさぶただらけになってしまいました。

なんでも真夏の高温で活動停止していた虫が秋真っ只中にブンブン飛び回っているのだとか。そう言えば、家の中に小バエが多いたり、カメムシもウロウロして、「ギャー！」と声をあげたりしています。人間が招いた温暖化に自然からのしっぺ返しなのでしょう。めぐりめぐっての報いなのです。



公開講座の安藤弥先生

「一揆後の寺院について」を熱演

さる10月5日(土)午後2時より順慶寺本堂にて、同朋大学教授・安藤弥先生を講師に迎え公開講座が開催されました。

順慶寺では、毎年10月に著名な先生をお迎えし、公開講座を開催しています。今年は、10月初旬になっても、冷房が必要な暑さでしたが、ほぼ満堂の聴講の皆さんが本堂に集まりました。

今年の講師は、一昨年のNHKの大河ドラマ『どうする家康』に、資料を提供され、自らもドラマに出演された、同朋大学の安藤弥先生を講師に迎え、「一揆後の寺院について」という講題でお話いただきました。

お話は、まず、先生が大河ドラマに臨時に出演された話から始まりました。その後、一揆のお話、一揆後の寺



公開講座での安藤弥先生(10月5日、順慶寺本堂にて)

自然治癒力を呼び戻す ゆるふわ体操



10月9日、むつみ会が主催して、順慶寺本堂にてゆるふわ体操が開かれました。ゆるやかにふわっと体をほぐして、血行をよくするゆるふわ体操を、今川町の橋本久美子先生に教えていただきました。

院についてのお話がありました。

三河一揆は、家康の三大危機の一つに数えられ、多くの家来が自身に刃向かう形になった、一大スキャンダルでした。永禄6年(1563)に勃発し、半年ほど続いた一揆でしたが、やがて多くの家来が帰参したため、永禄7年(1564)終息に向かいました。

その後、家康の命により、本願寺下の寺院は、本願寺以外の真宗に移るか、他宗への改宗を迫り、拒んだ寺院は破却しました。一揆が最終してから、十九年間は、

三河国において真宗は禁制となりましたが、信長が亡くなった翌年(天正11年、1583)、刈谷城主・水野忠政の娘で、家康の母・於大の妹にあたる、妙春尼に赦免の報せが届きました。つまり、妙春尼が三河の真宗再興に動いたのです。

最後に、安藤先生は、こうした経緯を踏まえ、泉田に五ヶ寺あったという真宗寺院のことを話していただきました。

泉田は、絵下城という城があり、衣浦湾で貿易ができ、矢田作十郎という城主が支配していました。しかし、矢田作十郎が一揆の際に討ち死にしているから、泉田の歴史が途絶えてしまします。こうしたことから、泉田にあった五ヶ寺も他宗に改宗して、赦免になってもまだ、住職は追放されたままだった可能性が高かったとお話でした。

10月度護国寺会物故者

浄道院釋孝誠

9月28日寂 鬼頭孝次(77)

一ツ木町 鬼頭政利様の父

智厚院釋毅頭

10月1日寂 加藤 毅(72)

大久屋前川組 加藤温様の兄

彩華院釋尼清里

10月5日寂 鍋島里絵(58)

名古屋市 小松方樹様の娘

瑞現院釋直幹

10月19日寂 杉浦幹雄(90)

一ツ木町 杉浦真様の祖父

精陽院釋尼見淨

10月26日寂 岡本きよ江(94)

知立市 岡本修一様の母

釋勝観

10月27日寂 塚本勝美(92)

名古屋市 塚本良子様のお夫

編集部短信

◆玄関前雨落ち工事終了!! さる9月30日、客殿書院(玄関)の雨落ち工事が完了した。玄関の下駄箱付近に、大雨の際に雨水が雨樋からあふれ出ているため、雨樋に銅板を足してあふれ出さないようにする工事が必須だった。

◆境内庭師が交代!! 昨年まで永き亘って順慶寺境内の造園を取り持つて下さった、翠保造園さんが今年の夏までに勇退されたため、急遽現量委員で庭師を探すこととなった。難航したが、10月より西尾市田貫の庭新さんが受けて下さることになった。

◆本山団参メ切!! 本年度の本山報恩講団参の募集を10月20日締め切った。メ切までに順慶寺から申込をした参加予定者は、26名となった。

編集雑記

10月に初めて北陸新幹線に乗って、富山に行きました。これは、ある御門徒の方が、富山に引越されて、仏壇の御移徙をされたためです。近くには、能登地震の被災地もあって、最近まで水道が止まっていたと聞きました。傍から見ると何事もなかったように見えたので、それは良かったと安堵したのですが、実は、被災された方の苦勞が見えなかっただけの愚者でした。(住)

先日キンモクセイの甘い香りが帰りがけに香ってきました。例年はもう少し早くから香ってきたような気がしますが、連日の暑さの影響でしょうか、秋の訪れも遅れてきているようです。(若)



11月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	金	(有志)寺カフェ(9:00~、順慶寺南落間他)	
2	土	コーラス練習(15:00、順慶寺本堂)	
		報恩講助音練習(16:00、順慶寺本堂)	
3	日		文化の日
4	月	おたのしみ会(14:00、順慶寺)	
5	火		
6	水		
7	木	帰敬式事前説明会(14:00、順慶寺本堂)	木-1
8	金		
9	土	コーラス練習(15:00、順慶寺本堂)	
		報恩講助音練習(16:00、順慶寺本堂)	
10	日		
11	月		
12	火	おみがき大掃除(8:30、順慶寺)	
		花立て(13:00、順慶寺本堂)	
13	水		
14	木	報恩講準備・お荘厳(8:00、順慶寺本堂)	木-2

15	金	帰敬式(13:00~)	
16	土	当山報恩講	こども報恩講(17:00~)
			第二日目(午前・午後)
			第三日目(午前・午後)
17	日		
18	月		
19	火	同朋ゼミ(14:00、順慶寺玄関)	
20	水		
21	木	21組主催・本山報恩講団参	木-3
22	金		
23	土		勤労感謝の日
24	日		
25	月		
26	火		
27	水		
28	木	宗祖聖人御正忌御命日(7:00、順慶寺本堂)	木-4
29	金		
30	土		
12/1	日	(有志)寺カフェ(9:00~、順慶寺南落間他)	

11月行事内容 詳細

当山報恩講

11月15日(金)~17日(日)

於：順慶寺本堂

順慶寺最大の法要、報恩講を護寺会の総力でお勤めいたします。本年は、初日に帰敬式とこども報恩講を開催し、二日目(コーラスもあり)・三日目は通常の午前午後の日程で法要を開催する予定です。三日目の午後の法要は、三河雅楽研究会の皆さまによる雅楽の伴奏(附物)があります。お斎接待は、二日目を今川・三河地域、三日目を泉田・尾張地区のお斎ご案内とさせていただきますが、都合により別日につくことも可能です。なお、本年もお茶接待を実施いたします。

令和六年度 当山報恩講日程

11月15日(金)

13時~15時 帰敬式

17時~18時半 こども報恩講

11月16日(土)

10時~12時 結願速夜

13時~15時 お勤め・法話

講師・同朋大学講師 飯田真宏氏

◎お斎案内：今川地区・三河地域他

11月17日(日) 結願日中

10時~12時 お勤め・法話

13時~15時 お勤め・法話

講師・元名古屋大教授宇治谷顕氏

◎お斎案内：泉田地区・尾張地域他

お知らせ

●報恩講コーラス及び助音練習について
今年も報恩講前の事前助音練習を11月2日、9日の両日午後4時から実施します。今年からは、助音には参門会の参加の予定です。なお、同日、午後3時からコーラスの練習も実施します。

●11月からお取越をはじめます
11月から例年のように、各家にお取越(在家報恩講)を勤めに

上がります。各地門徒の皆さまには、事前にハガキにて参詣予定日時をお知らせします。

●公開講座で使用了録『親鸞と東北の念仏』を販売します
今月の一面写真にあるように、安藤弥先生が関わられた、仙台市博物館で開催されている特別展『親鸞と東北念仏』ひろがる信仰の世界の図録を、希望者に実費(2800円)で販売します。限定数は先着4冊です。

じゅんこのときめき歳時記

シクラメン

みなさん、10月の終わりごろになってようやく朝晩が涼しくなってきましたね。このころになると秋バテもあるそうですが、大丈夫でしょうか。

秋が深まってくると、木々もセピア色になってくるイメージですが、シクラメンの花は、このころに鮮やかに咲きます。よく、花屋さんやスーパーで見かけるので、馴染み深いですね。

昭和に「シクラメンのかおり」という歌が流行ったそうですが、聞くところによると、シクラメンにはあまり香りがいいそうです。この歌が流行ったことで、いい香りのするシクラメンはないかと研究され、三十年ほど前に

バイオテクノロジーで作ったそうです。和名では、カカリビナと呼ばれるそうですが、これは、九条武子さんが「かがり火のような花ですね」と言ったことを聞いた、彼の牧野富太郎氏が命名したそうです。

出荷きま

万の炎のシクラメン

西村和江

